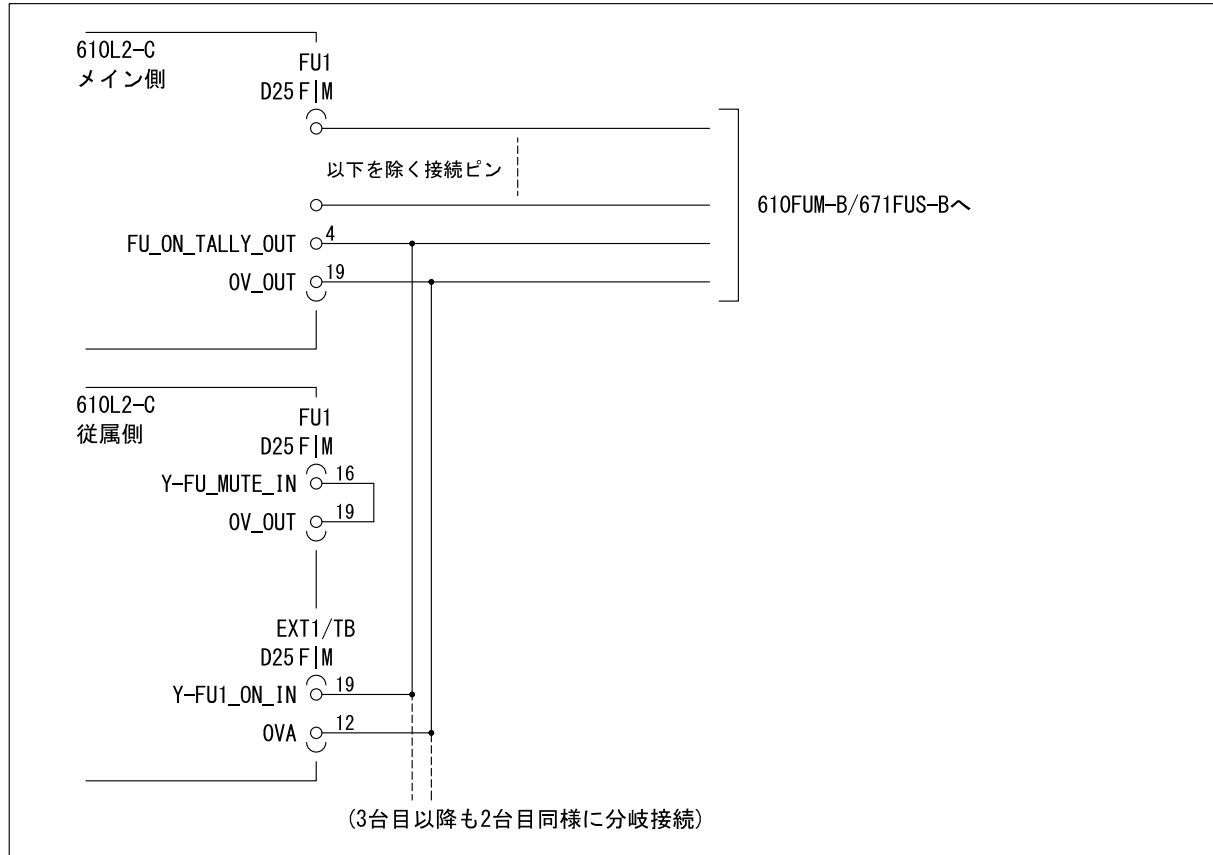


・ カフボックス1台で2台の610L2-CのCH(計4CH分)をON/OFF制御したい

610L2-C 2台以上のCH連動動作を得るための接続方法はいくつかありますが、ここでご紹介するのは、RTB時や強制カフONなどに対してもCHの連動動作が維持される方法です。他の機能とのトレードオフが無く推奨いたします。



ここでは、2台の610L2-Cそれぞれを、カフボックスとMON/RTB音声を接続するほうを“メイン側”、追加CH部分となるほうを“従属側”と呼びます。

- ・メイン側のカフボックス接続ケーブルから2本パラ分岐して従属側のEXT1/TBコネクタへ接続します。
 - ・従属側のFU1コネクタには上図の内部ジャンパー付きダミープラグを接続します。
 - ・上図以外の制御接続(TB BOXや強制カフONなど)はメイン側に対して1台で使用する場合と同様に行なってください。
 - ・本体設定は2台ともフロントパネルCH LINKスイッチを“CH1MASTER(出荷時同)”にします。
- *動作時は2台共電源ONで使用してください。メイン側のみONでは動作不良となることがあります。
*3台目(2台目の従属側)以降がある場合は2台目(上図の従属側)同様に(ダミープラグも同様に)接続します。

上図の接続では、メイン側と従属側のSLS MUTE動作の連動性が一部不完全ですが、通常、従属側のSLS I/Oは使用しないので問題になりません。

メイン側のSLS I/Oに加えて従属側のSLS I/Oもメイン側と連動で使いたい場合は、上図の接続に加えて、メイン側-従属側のEXT2/COMM Pin23“SLS_MUTE_LINK”同士を接続してください。2台のSLS MUTE動作の連動性が確保されます。さらに、EXT2/COMM Pin5“Y-SLS_THRU_IN”端子を使用する場合は(この端子を使用するケースは稀ですが)メイン側と従属側両方にパラで接続してください。*繰り返しますが、従属側SLS I/Oを使用しない通常的使用方法ではEXT2/COMM Pin23、Pin5のユニット間接続は不要です。上図の接続でOKです。